

「三秋」で登る猪犬の頂点 (最終回)

田宮 治

生兵法は大怪我のもと

人生で何事をするにつけても、

中途半端な技術や知識を誇った
り、未熟な猟法をふりかざしてみ
ても、落ち着くところは
大失敗をするだけである。物事を完成させ
たり、成果を残すためには、人知
れぬ努力と探究心以外にないので
ある。猪犬作りでも猪猟の方法で
も、そんな意味から、第一に自身
の今ある実力を知ることが肝要で
ある。猪犬作りや猪猟を見事に完
成するには、当然のことながら周
到な準備が必要で、それに基づく
計画的な訓練を実行しなければな
らない。

素晴らしい猪猟を単独で成し遂
げるには、猪をきちっと止め置く
一流芸の犬群なくしては話にもな
らない。

そんな道理を突き破るようにな

本の電話が鳴った。平成十九年六
月頃だったと思うが、大分県津久
見市の戸川邦男氏からであった。

「猪は獲ったことがないが、単
独猟をやりたい」というものだっ
た。私はどのように答えてよいか
迷ったが、他の猟誌の記事などを
頼りに、方々手を尽くして仔犬を
探したあげく私を頼ったようで、
盛んに猪犬の様子や猟法を聞きた
だしている。

どうも鳥猟からの転向で、すで
に紀州犬などを仕込んでいよう
だが、うまい具合にいかないらし
い。当たり前のことであるが、単
独猪猟は想像以上に大変なもの
で、誰にでもすぐに実現できるほ
ど簡単なものではない。

その上、使役する猪犬も並みの
芸では猪も止まらない。きちっと
止め置く一流芸の犬群なしでは、
無理な相談である。

しかし、戸川氏は、私の投稿記

事をことごとく読んでくれてい
て、「必ずそのとおりに実行する」
と言い切っている。「よし分かっ
た。俺の言うことを馬鹿になっ
て聞いてくれるか？」と問いただす
と、若者らしく「何でも教えられ
たとおり必ず頑張ります」と、実
直な言葉がはね返ってきた。

私は常々、生兵法は大怪我のも
とだと思っているし、今までに多
くの仔犬を、俗に達人？と言っ
て憚らない猟人たちに引き取り
だいて、その仔犬の成長を期待し
てきた。しかし、期待に反し、本
物の達人以外は、できないことは
犬のせいにして苦言ばかりが返っ
てきた。

そんな折に、自分の体験談を元
に良い訓練法を説明しようものな
ら、決まって「俺は何年もやって
いるし、何十頭も犬を飼ってき
た。それくらいのこと分かって
いるわい」で終わりである。全く

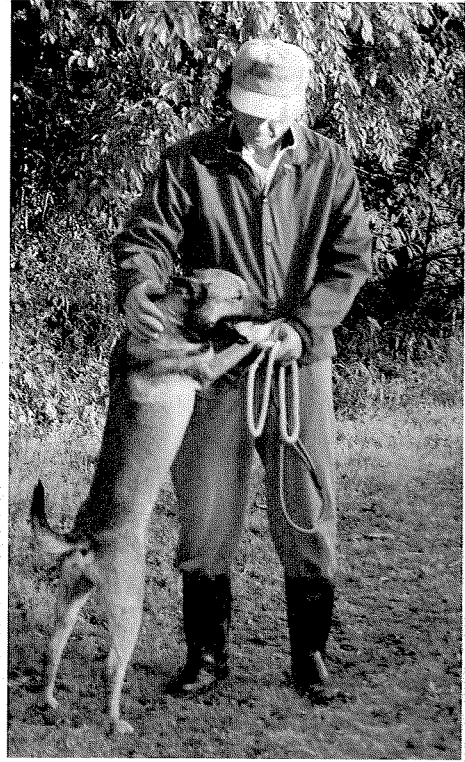
もって残念で、せっかく良い資質
の仔犬が可哀そうでならない。何
を言ったところで、私の言葉を理
解していただき、仕上げに活用し
ていただかないことには打つ手は
ないのである。

その点から言える大切なこと
は、中途半端な技術や知識は一番
駄目なことだということである。
それよりは素人なら素人で結構。
馬鹿になり切って、まずもってよ
く聞き、即実行することである。
何事によらず、良いお手本は必要
で欠かせないものである。そのこ
とを素直な目で見極め、実践する
ことで、貪欲に秘技を掴み取るの
が重要な心構えであり、何よりも
大切なポイントである。

思う念力、岩をも通す

真剣に心をこめれば、どんな困
難なことでも必ずできるという強
い信念を持ち続け、何度でも挑戦
し続けないことには、思いどおり
の猪犬一頭もできはしない。まし
てや単独猪猟など論外とも思った
のであるが、戸川氏が猪犬と単独

どこまで登っても、「つなひき」が基本である。数分でよい。毎日欠かさずやるのがポイント



「つなひき」さえしっかりできていれば、このとおりの体になる。六カ月のヒデ号(三ノ矢)



「三ノ矢」のカク号、スケ号、千代号

犬舎ではどこまでもおとなしい各種犬種、ゲン号とサクラ号。「三ノ矢」のカク、スケ、千代号は両親の秘芸をあますところなく受け継いでいる



大分・戸川邦男氏

猟にかけている情熱に押され、犬舎で一番単独猟に合う仔犬を一頭送り、様子をみることにしたのである。戸川氏は私の忠告をよく聞き入れ、実践の場でそのとおりの訓練をやっているようで、事あるたびに電話で長々と報告してくれた。

その言葉の端々から伝わってくる熱意は大変なもので、若い時の自分を見ているようだった。よしよし、これならいける、と安堵した。それから川崎と大分で、見せてもらって教えられないもどかし

初挑戦の単独猪猟奮戦記

前略 田宮様、今年の狩猟はいかがでしたか。私は猟の始まる前に目を痛めて、片目で猟をしています。

十一月十八日にクマ（十九年に送ってもらった牝）、マリ（二十年にももらった牝）、カイ（紀州犬の牝）を猪がよく出る竹藪で放すと、十分ほどで鳴き出したので、近づくに気付いた猪が三度走りま

さを長電話で分かるように話したが、実によく実践してくれた。一番良いことは仔犬を愛し、信

じきっていることだ。次に骨惜しみせず、毎日山に引いてくれていること。そして何より恵まれていくのが、家から綱なしで猪山に出かけられることである。そんな環境までも私の生家（新潟県村上市）と全く同じである。

私は猪猟は愛犬次第だと思っ

そんな体験から、猪猟を達成する一番の近道は資質の良い仔犬を

自分の猟法に合うように訓練することだと言いつづけている。この事実を私なりに実践し証明すべく、『三秋を見る』というタイトルで挑戦中であるが、ちょうど平成十九年は重大決意で、「一ノ矢犬群」を名犬群にすべく仕込んでいくところであった。

毎日一ノ矢の仔犬群を引き連れ山に分け入っているので、同じ胎の仔犬ではないが、戸川氏の仔犬の成長は電話で聞くだけで十分に知ることができたし、時々の手順

ての時でした。（中略）

十二月七日。この日は十一月三

十日にクマとカイを引きずって逃げたヤツをなんとかしようとして、獵友と二人で出獵。竹藪の一番濃い所に獵友を待たせて、いつものように家の裏から犬を入れると、二十分ぐらいバラバラに探していた犬が獵友のほうに走って行くときに鳴き出しました。犬の声は無線から聞こえるのですが、なかなか銃声がしません。無線で獵友に

これが私にとって初めての猪でした。今までは偶然で獲れたことはありましたが、猪を獲りに来て、考えていたことが現実になった初め

をマル秘部分も含め適切に指導することもきちっとできたと思っ

ている。そして平成二十年四月、「もう一頭仔犬を送ってください」との連絡を受けたのである。一頭の仔犬を上手に育てたことで、私と犬舎の犬群を信じ、もう一頭欲しいと言おう。正直とても嬉しかった。

よし、俺が必ず戸川氏を「単独獵人Ⅱ男」にしてやる。犬舎にはちょうど一年遅れのミス号と竜号の仔が生まれている。少し強めだが一年違いの兄妹犬をバックで使えば、三頭分以上の力が出せる。この仔たちならば、親犬同様に一頭だって猪はきちっと止まるが、こんなに離れていては一軍犬群の「これぞ猪犬だ」という自慢の止め芸を見てもらうこともできない。

しかし、先に送った仔犬の成長は、私が特に力を入れて仕上げている一ノ矢犬群にも負けない様子である。この仔とならば必ず名コンビになる。そんな思いで牝の仔犬を送ったのである。

そして二十年八月十一日、「仔

犬の側に行つて撃つように頼むと、やっと銃声が聞こえて安心しました。

行つて見ると、クマが顎二カ所、首、尻尾など計五カ所、マリが胸、腹二カ所、カイが足一カ所、三頭とも血だらけになっていました。私は獣医のもとに、猟友は猪の解体。九時四十分撃つて、解体が終わつたのが十九時でした。

猟友は「猪が自分の前に来て水を飲んでるのが分かつたので、動かずにいると犬が来てタツの上で鳴き出し、猪を自分のいる谷の下まで引きずり落とした時に私から撃つてくれとの無線が入つたので、夢中で撃つた」とのこと。八五キロのオスで、この猪は秤にかけられませんでした。

十二月三十日、朝八時。七日に猪を撃つた所で犬を出すが良いなし。十一時、道一本横の竹藪に入れると、すぐにカイが鳴き出ししました。クマとマリがすぐに追いついて、少しずつ鳴く場所が動いていきます。

川の縁で三頭の犬が石に向かつて吠えています。よく見ると耳が



12月30日に獲った130 kgのオスジシ。これだけの大物にもびくともしない。カイ号、マリ号、クマ号の咬み止め

動きました。石ではなく猪。頭より心臓を撃つと、さすが大物、七メートルぐらい走りまわりました。犬が咬んでいるところを耳に一発。猪が大きいので犬をよく見ると、クマが腹を五センチほど切られています。念のため獣医で縫ってもらいました。十一時二十分に撃つてから、車に乗せたのが十五時二十分。一三〇キロのオスで、思い出に残る一頭です。(中略)

この猟期、九頭を捕獲しました。一頭が思うように獲れた時の

嬉しさ。九頭目が獲れた時には獲れて当然、こんなことを思った猟期でした。

これも田宮様のお陰です。ありがとうございました。

戸川 邦男

(編集部注・一月十七日の出猟では愛犬が負傷し、獣医で四時間の手術を受けている。診察の二日後、愛犬クマが骨折していることが判明、二カ月キブス生活を送った。)

犬が見事小猪を噛み止めた……」との嬉しい連絡を受けた。一生懸命猪犬に取り組んできて、一番嬉しいことは「良い猪犬になった」と言われることである。良い知らせを聞いた時に、わがことのように嬉しいものである。

何とか田宮系猪犬を猪猟のど真ん中に置いてやりたい。このツルを猪猟になくてはならない存在にしたい。私の挑戦はそのために続いているのである。早く私を超えた達人がこのツルの猪犬を根づかせ、守ってほしいものである。「戸川さん、もう大丈夫だ。焦るなよ。必ず秋の猟期にはバリバリ咬み止める立派な猪犬になるから……」と喜び合い、今猟期までの実践に対する作戦を事細かく説明してやった。

そんな苦労の甲斐あってか、ここ五、六年で犬舎もすっかり知名度を上げ、仔犬たちも各地で大活躍を遂げている。千葉の増田さん、愛知県豊田の加藤さん、島根県津野の大庭さん、鹿児島島の志戸岡さん、私と犬を信じ見事に咲かせてくれた。本当にありがと

う。私も負けずに、より高い目標を立て頑張っていきたい。

幸いなことに、全国の猪獵人から「素晴らしい猪犬になった」と嬉しい連絡がどんどん入ってきている。目標の「どこに出しても恥ずかしくない猪犬群の完成」である。遠かったこの道程を思いだし、しみじみと幸せを噛みしめている。

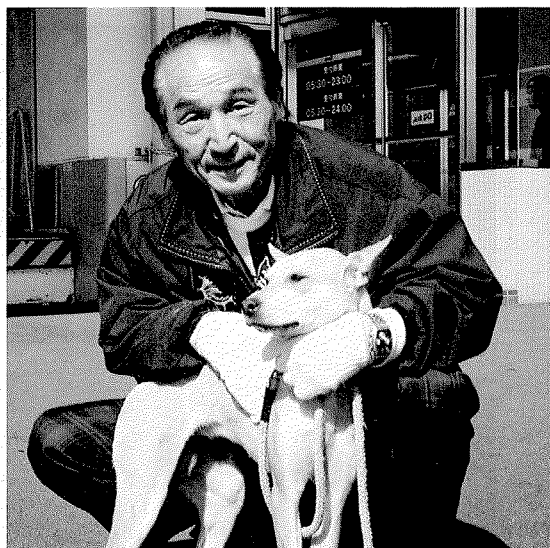
論より証拠

戸川さんから送られてきた一枚の写真に私は驚いた。

「これは本物だ！」

これほど強烈な咬み芸は、私の一ノ矢犬群でもブル号とヨシ号くらいのものである。まだ一才くらいの若犬に容易くできる芸域ではない。一三〇⁺級の犬にこの咬み込みである。写真をじっと見つめているだけで、犬たちの攻防の様子が目に浮かび、思わず抱きしめ褒めてやりたい心境になる。

いや、犬たちだけではない。戸川氏の頑張りだって、ここまで仕込むには大変なものだ。私の忠



「元気でなァ、千代ッ！」(平成21年4月23日、羽田空港で)。千代号は、わか犬舎一番のチヒロ号の仔である。仔犬でも、お別れは寂しくなるものです

告をきちっと守り、手順を尽くし、山に引き、這いずり回って掴み取った涙と汗の結晶である。

できる猪獵人ならば、これらの写真を見れば一目瞭然。わずかに年くらいで堂々の単独猪獵人になったことの証しである。誰が見ても、この咬み犬ならば猪は獲れて当たり前である。思わずわが事のようにニヤニヤしてくる。戸川氏が近くなれば、飛んで行くとおめでとう、よく頑張ったねとガッチリ握手して、関東猪犬猟山彦会の支部長になってもらいたいところ

であるが、関東をはるか離れた大分である。

残念この上なく思っていると、「獵友が若犬たちの咬み込んだ猪を撃ち獲り、感激してどうしてもこの犬たちの仔犬が欲しいと言っているが、どうしたらよいだろう」と相談してきた。

私は仔犬を作るなら兄妹犬でも良いと思うのだが、田宮系を守って大分の地に根付けてほしいと告げ、この組み合わせならば絶対だと自信の持てる当犬舎の名台牝チヒロ号にそっくりな牝の仔犬を、

できることならば千代号と名付けたくないかと手紙を付け、平成二十一年四月二十三日に送ったが、私の戸川氏に対する心ばかりの褒美と思っている。戸川氏はまだ若い。私の思ったとおり気持ちも入っている。

これで私と同じ確かなツルの猪犬も出来上がった。その猪犬ともにあと二秋、私と同様に実戦で努力すれば、立派な単独猪獵人になれるはずである。そして猪犬群も、一芸を見ているだけで楽しめる一流芸の猪犬群に成長するであろう。

私が今回特別な思いで天下に公表、目下挑戦中である『三秋を見ろ』に賭ける存念は「より高い頂点」を目指すことで、猪犬作りや訓練法、そして獵道までもその神髄を探究。もって右肩下がりの獵界に風穴を開け新風を送ることで、一人でも多くの猪獵を志す若者に夢と希望を与えてやりたい。あくまでも戸川氏のような後に続く猪獵人の道標になりたい。そんなことを思っている一秋は、実に見事な若犬群の頑張り計画どおり

の仕上がりによって、有終の美を飾ることができ、ホッと一息しているところである。

一秋の成果は見守る獵友を圧倒するもので、猪犬の素晴らしさと確かな天性の獵能を実戦の場で極限まで發揮し、見事に証明したものである。

この大切な手応えを忘れず、残る二秋はさらに頑張つて、見応えのある名犬芸を披露できるように二ノ矢の犬群を選び、その訓練に当たりたい。誰にでも分かるように仔犬からの訓練法を実戦を通して述べることで、何か猪獵を志す者への参考になったり、良いキッカケになればと思つて立案、私と一緒に登つたり猪犬訓練を実戦することでも無駄や無理なく、すんなりと頂点にたどり着けるように計画した「三秋の挑戦」は、残念ながら「二秋」が過ぎてまだまだ出していただけない。天下に公表、何とかその中から猪犬作りの何たるかや、獵道の常識などを考え直し、最も正しい道をより簡単に一番近道で達成していただきたい。

そんな存念も「一秋」では届か

ず、十分な説明もできなかったと思うのだが、それでも仔犬が縁で、みなそれぞれの目標を掲げて私と一緒に頂点を目指してくれたい。良い手本があつて、良い師に恵まれて、覚えようとする目とよく聞く耳さえ確かであれば、難問の猪の単独獵であっても一年くらいで十分にこなせるようになる。あとはゆっくりと楽しみながら自分流にアレンジ、メリハリを付けて完成すればよい。なかなか戸川氏や加藤氏のようにはいかないまでも、ワイワイ、ガヤガヤ語り詰めていく中で猪犬作りの一番良い方法を掴み取つてほしいと思つている。

おしなべて「一秋」は、私と同じ条件の下、仔犬を引き連れ、皆さんはよく挑戦してくれた。それなりの成果も残り、一人前の猪獵人となつてくれた。私のように猪が全くいない所で育ち、狩獵は覚えても猪や猪犬を知らないための失敗や挫折を誰にも負けないほど味わい、遠回りして何十年もかかつて苦労の末にやつとこのことで会得した猪犬作りや、獵法までも何

のことはない。その急所さえ掴めばしめたもので、このように一年くらいで立派にできる簡単なことなのである。

何年もかけてベテラン獵人が撃ち獲る猪も、初心者が初獵期で簡単に獲つた猪も獲れたことに変わりはないのだが、問題はその中味である。どこまでも実戦の場で体験を積んで犬芸を育て、腕を磨く。愛犬と自分だけの力でただ一頭の猪が獲れるようになることである。偶然やまぐれ当たりでなく、それが本物の実力になつていれば、その先、猪はどんどん獲れるし、実績の積み重ねが達人であつたり名犬となるのである。

繰り返しになるが、達人や名犬を望むのであれば、「一秋」くらいの成果に満足してはならない。満足すれば、その時点で成長は止まり、物事完成に欠かせない進化も止まる。基本的には達人や名犬といえども、さらなる努力をし進化することが大切である。たかが猪犬作りであつても、実践の場は思つた以上に厳しい。ましてや真劍勝負の

実戦には情など挟む余地はない。登つても越えても、さらなる頂点を目指し、それに挑戦し続ける執念を忘れてはならない。初心者であろうとベテラン獵人であっても、猪獵の実戦はただ一つ本物の実力が頼みであり、モノをいうのである。どここの山でも、いつでも当たり前のように猪を狩り込み、当然のように猪を撃ち獲る。それだけのことがきちつとできる人になつたり、犬にすることではあるのだが、なかなか一筋縄ではいかない。

どれも簡単ではないところが挑戦心に火をつけたら、やり甲斐になつたり、そんな中に生きる喜びまであるのだから、たまらなく楽しい。お陰で私は若者たちの真ん中にいる。ありがたいことだと思つている。

(終)

ドッグフード1袋が全額を支えます

アタルトミニチャンク

20kg 5500円 7.5kg 3400円

ドッグフードのご注文は全額へ!